

改訂：2024年9月6日

# コネクタ 2.x からコネクタ 3 への移行

## コネクタ 2.x をコネクタ 3 に移行する理由

コネクタ 2.x から コネクタ 3 への移行を検討する必要がある理由は、次のとおりです。

表 1: コネクタ 3 に移行する理由

改善点	説明
改善されたアーキテクチャ：	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス指向型アーキテクチャを使用して、モジュラ コネクタ を作成します。</li> <li>各サービスは、ライフサイクル管理、ビジネスロジック、データチャネル、コマンドライン、ユーザーインターフェイスを備えた、独立したモジュールです。</li> <li>クラウド環境とコネクタ自体の両方で、サービスの管理と開発を簡素化します。</li> </ul>
機能の強化：	高度な機能の包括的なスイートを提供します。
高可用性：	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮想 IP ベースの高可用性構成をサポートします。</li> <li>自動化されたフェールオーバーメカニズムにより、シームレスな IoT と Cisco FastLocate の運用を促進します。</li> </ul>
高度なトラブルシューティング：	接続の問題を迅速に特定して解決するための、詳細なステップバイステップのトラブルシューティング ツールを提供します。
強化されたモニタリング：	<ul style="list-style-type: none"> <li>CPU使用率、メモリ、接続、トラフィックなど、システムとサービスのパフォーマンスに関する広範なメトリックを提供します。</li> <li>Cisco Spaces ダッシュボードを使用してモニタリングを有効にし、リアルタイムのインサイトを取得します。</li> </ul>
効率的なアップグレード：	サービスの更新やセキュリティパッチなどの、合理化された中断のないアップグレードを実現します。これらはすべて Cisco Spaces ダッシュボード を介して管理されます。

## コネクタ 2.x および コネクタ 3 でサポートされる機能

表 2: コネクタ 3 と コネクタ 2.x の機能マトリックス

機能	コネクタ 2.x	コネクタ 3
ロケーションサービス	対応	対応

機能	コネクタ 2.x	コネクタ 3
IoT サービス（ワイヤレス）およびIoT サービス（有線）	対応	対応
OpenRoaming	対応	対応
Cisco Spaces Apps	対応	対応
Cisco FastLocate	対応	対応
IPv4	対応	対応
IPv6	非対応	対応
AMI のサポート	対応	対応
Azure サポート	非対応	対応
Hyper-V サポート	対応	対応
ローカル Firehose サービス	対応	対応
外部 AAA のサポート	対応	対応
パートナーアプリケーションの統合またはアプリケーションのサポート	対応	対応
デュアルインターフェイス	対応	対応
ハイ アベイラビリティ	対応	対応
高度な高可用性（IoT HA）	非対応	対応

## はじめる前に

コネクタ リリース 3 をダウンロードして設定します。『[Cisco Spaces : コネクタ Configuration Guide](#)』の「Configuration」セクションを参照してください。最新のインストールを見つけるには、リリースノートを参照してください。[Release Notes for Cisco Spaces: Connector](#)

コネクタ 3 インスタンスをインストールしたら、特定のユースケースに関連するサービスが有効かつ [ACTIVE] 状態で、最新バージョンに更新されていることを確認します。

表 3: インストールするサービス

Service	方法
IoT サービス（有線）	<a href="#">IoT サービス（有線）の設定</a>
IoT サービス（ワイヤレス）	<a href="#">IoT サービス（ワイヤレス）の設定</a>

Service	方法
ホットスポットサービス	<a href="#">ホットスポットサービスの設定 (23 ページ)</a>
ローカル Firehose サービス	<a href="#">ローカル Firehose サービスの設定 (24 ページ)</a>

## 移行と確認

### Cisco Spaces ダッシュボードでのコネクタ 2.x からコネクタ 3 への移行

この手順では、Cisco Spaces ダッシュボードで既存の Cisco Spaces : コネクタ 2.x の設定を コネクタ 3 に移行する方法を示します。

---

**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。



Cisco Spaces の URL は地域によって異なります。

(注)

**ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Setup] > [Wireless Networks] の順に選択します。

**ステップ 3** 2 の[Configure Spaces Connector] エリアで、[View Connectors] をクリックします。

## ☒ 1: View Connectors

**1 Install Spaces Connector OVA**  
Download and install Spaces Connector OVA as a virtual machine.  
[Download Spaces Connector](#)

**2 Configure Spaces Connector**  
You will need a token to configure Spaces Connector. You need to connect to `https://<your connector IP>/` from a browser to configure the token. You can optionally configure Spaces Connector to connect via HTTPS proxy.

0 / 6 connector(s) active [Create Connector](#) [View Connectors](#)

**3 Add Controllers**  
Add and associate controllers to your Cisco DNA Spaces Connector(s)

0 / 3 controller(s) active [Add Controllers](#) [View Controllers](#)

**4 Import Maps**  
Prime/DNAC map requires in order to work Locate & detect, Asset tracker, and IOT services, and proximity Report

1 buildings imported [Import/Sync Maps](#)  
3 floors imported [Map Upload History](#) [Manage Maps](#)

**5 Setup location hierarchy**  
Once the maps imported, you can add them into location hierarchy

0 controller(s) imported to location hierarchy [Add Locations](#) [Manage Location Hierarchy](#)

ステップ 4 表示された コネクタ のリストから、インストールした コネクタ 3 をクリックします。[Add Controller] をクリックします。

図 2: コネクタ 3 を選択

Setup > Connectors

**SUMMARY**  
3 Connectors | 1 Up | 2 Down | 1 location enabled

**Warning:** Starting Nov/2023 Connector 2.x entering in to maintenance mode. Security updates will be available till June'2024 and extended support to critical bug fixes till Oct'2024. We recommend migrating to Connector 3 and please refer this [Connector 2 to Connector 3 migration guide](#) for more details.

**Connectors** [Create New Connector](#)

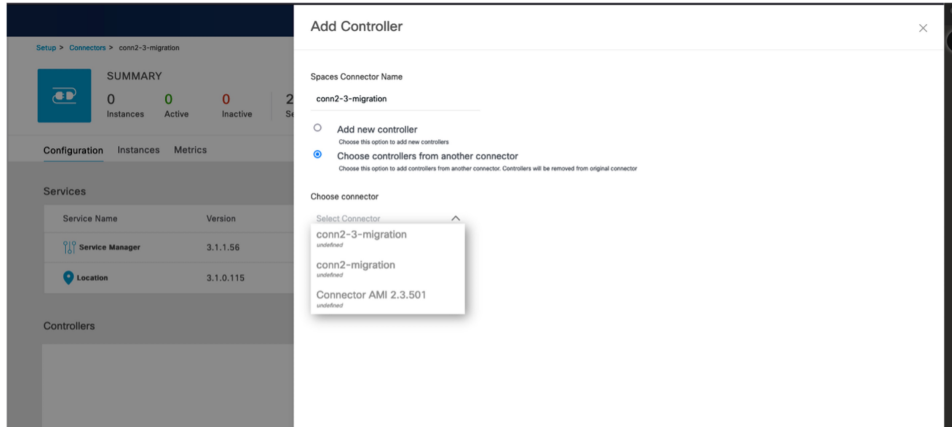
Name	Release	Instances	Switches	Controllers	APs	Status	Last Modified	Last Heard	Actions
<a href="#">conex- migration</a>	ova-2.3.506	NA	0	1	0	Up	Dec 3, 2023, 8:00:48 PM	Dec 3, 2023, 8:31:08 PM	
<a href="#">conex-3- migration</a>	3.1	0	0	0	0	Down	Dec 3, 2023, 9:14:26 PM	Never	
<a href="#">Connector AMI 2.3.501</a>	ami-2.3.502	NA	0	3	0	Down	May 25, 2023, 3:21:44 AM	Never	

First | Previous | 1 | Next | Last

(1 - 3 of 3) : 1 pages

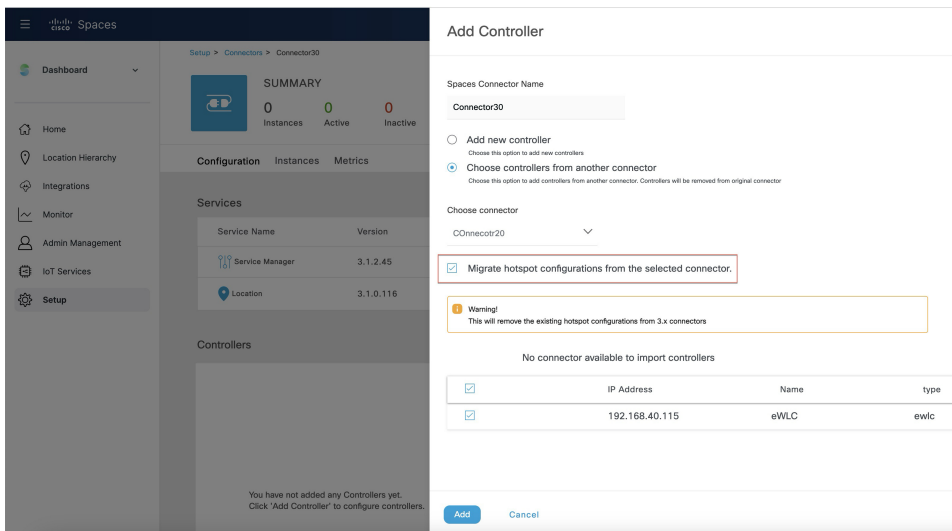
**ステップ 5** この特定の コネクタ の [Add Controller] タブで、[Choose controllers from another connector] をクリックします。表示される [Choose connector] ドロップダウンリストから、設定の移行元にする コネクタ 2.x を選択します。

図 3: ワイヤレスコントローラ をコネクタ 2.x から移動



**ステップ 6** コネクタ 2.x からホットスポット設定を移行するには、[Migrate hotspot configurations from the selected connector] チェックボックスをオンにします。

図 4: コネクタ 2.x からのホットスポット設定の移行





(注)

ホットスポットサービスの移行に関するポイントは次のとおりです。

- Cisco Spaces は、新しい コネクタ 3 インスタンスでコネクタ 2.x と同じホットスポット設定をセットアップして有効にします。
- Cisco Spaces は、ワイヤレスコントローラ から コネクタ 3 インスタンスにトラフィックを自動的にルートしません。
- ユーザーは、ワイヤレスコントローラ の設定を手動で更新し、コネクタ 3 インスタンスにトラフィックを転送する必要があります。ワイヤレスコントローラ の設定を Connector3 インスタンスに移行するには、[Cisco AireOS または Cisco Catalyst ネットワークの設定 \(27 ページ\)](#) を参照してください。
- 新しい設定のセットアップと確認を終えたら、ユーザーは コネクタ 2 への参照を削除して、以前のホットスポットまたは OpenRoaming のセットアップを無効にする必要があります。
- コネクタ 3 の既存のホットスポット設定は、コネクタ 2.x から コネクタ 3 に移行するときに上書きされます。

## コネクタ 3 の移行ステータスを確認する

[Setup] > [コネクタ] windowの順に選択し、移行のステータスを確認します。コネクタ 3 の [Status] セルの値が [Down] から [Up] に変わるまで待ちます。

図 5: コネクタ 3 のステータスを確認する

The screenshot shows the 'Connectors' page in the Cisco Spaces interface. At the top, a summary bar indicates 3 connectors, with 2 'Up' and 1 'Down'. Below this is a warning message about Connector 2.x entering maintenance mode. The main section is a table titled 'Connectors' with columns for Name, Release, Instances, Switches, Controllers, APs, Status, Last Modified, Last Heard, and Actions. The table lists three connectors: 'conn2-migration' (Up), 'conn3-migration' (Up), and 'Connector AMI 2.3.501' (Down).

Name	Release	Instances	Switches	Controllers	APs	Status	Last Modified	Last Heard	Actions
conn2-migration	ova-2.3.506	NA	0	0	0	Up	Dec 3, 2023, 8:06:45 PM	Dec 3, 2023, 8:47:38 PM	
conn3-migration	3.1	1	0	1	0	Up	Dec 3, 2023, 8:14:26 PM	Dec 3, 2023, 8:47:16 PM	
Connector AMI 2.3.501	ami-2.3.502	NA	0	3	0	Down	May 25, 2023, 3:21:44 AM	Never	

## ワイヤレスコントローラ、AP、および ロケーションサービスの確認

ワイヤレスコントローラが [Active] 状態であるかどうかを確認します。次に、AP の数が コネクタ 2.x と同じかどうかを確認します。これにより、ロケーションサービスも自動的に確認が行われます。

図 6: ワイヤレスコントローラ のステータス

Setup > Connectors > covid-3-migration ID: 89136857539669780000 | Last Modified: Dec 2, 2023, 9:14:26 PM

**SUMMARY**

1	1	0	2	1	0
Instances	Active	Inactive	Services enabled Controllers		Switches

Configuration Instances Metrics

Services

Service Name	Version	Last Updated	Actions
Service Manager	3.1.1.56	Dec 2, 2023, 9:14:03 PM	
Location	3.1.0.115	Dec 2, 2023, 9:14:03 PM	

Controllers

Name	IP Address	# of APs	Last Modified	Last Heard	Status	Actions
rfid-ewlc Catalyst 9800 Wireless Controller	10.89.45.66	0	Dec 3, 2023, 8:30:27 PM	Dec 3, 2023, 8:47:42 PM	Active	



(注)

コントローラが [ACTIVE] 状態になるまでの時間は、選択したサービスの数と展開の規模によって異なります。ただし、このプロセスが完了するまで数分待つことをお勧めします。

## IoT サービス（ワイヤレス）の確認

ユースケースの IoT サービス（ワイヤレス）を有効にした場合は、サービスが移行されているかどうかを確認します。

**ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Setup] > [Wireless Networks] > **2** の順に選択します。[Configure the Spaces Connector] エリアで、[View Connectors] をクリックします。

**ステップ 2** 表示された コネクタ のリストで、新しく移行された コネクタ 3 を選択します。

**ステップ 3** サービスのリストから、[IoT Wireless] 行の歯車アイコンをクリックし、ポップアップメニューから [IoT Stream] を選択します。

図 7: IoT ストリームの選択

Configuration Instances Metrics

### Services

Service Name	Version	Last Updated	Actions
Service Manager	3.1.2.45	Apr 3, 2024, 1:55:12 PM	
Location	3.1.0.133	Apr 3, 2024, 1:55:12 PM	
IoT Wireless	3.1.3.27	Apr 3, 2024, 2:08:24 PM	<b>IOT Stream</b> 
local-firehose	3.1.0.78	Apr 3, 2024, 2:08:24 PM	

ステップ 4 [Manage IoT Streams] window で、[Operation Log] を確認し、ステータスが [Successful set config] であることを確認します。

図 8: IoT サービス (ワイヤレス) のステータス

Manage IoT Streams

Manage Connector **SUCCESS** [Configure to enable](#)

Enable IoT Streams on Cisco DNA Spaces Connector

Use Manual Configuration to setup IoT Services in Controller when the configuration can not be applied automatically.

Use the three dots action of Enable/Disable Stream to apply configuration changes to the Controller.

Controller	Connector IP	Controller IP	Operation Status	Operation Log	Last updated
ewlc-66	10.22.244.104	172.20.239.66	SUCCESS	Successfully set config	Dec 4, 2023, 10:20:16 AM

Manage Controller [Sample configuration](#)

Setup IoT Services stream authentication and certificate to allow APs to connect with the Cisco DNA Spaces Connector

The WLC will be configured to send notifications to Cisco DNA Spaces Connector for AP configuration changes.

[Cancel](#)

## ホットスポットサービスの確認

ユースケースのホットスポットサービスを有効にした場合は、サービスが移行されているかどうかを確認します。



- ステップ1 Cisco Spaces ダッシュボードで、[OpenRoaming] を選択します。[OpenRoaming] 左ナビゲーションペインで、[Setup] を選択します。
- ステップ2 [Hotspot-enabled Connectors] エリアで、[Cisco Wireless Controllers] を選択します。
- ステップ3 新しいコネクタ 3 インスタンスが [ACTIVE] 状態であることを確認します。

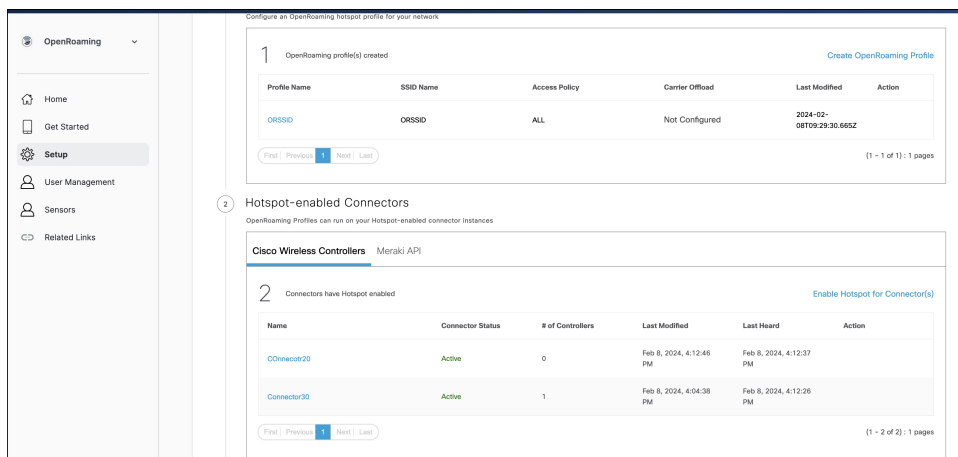
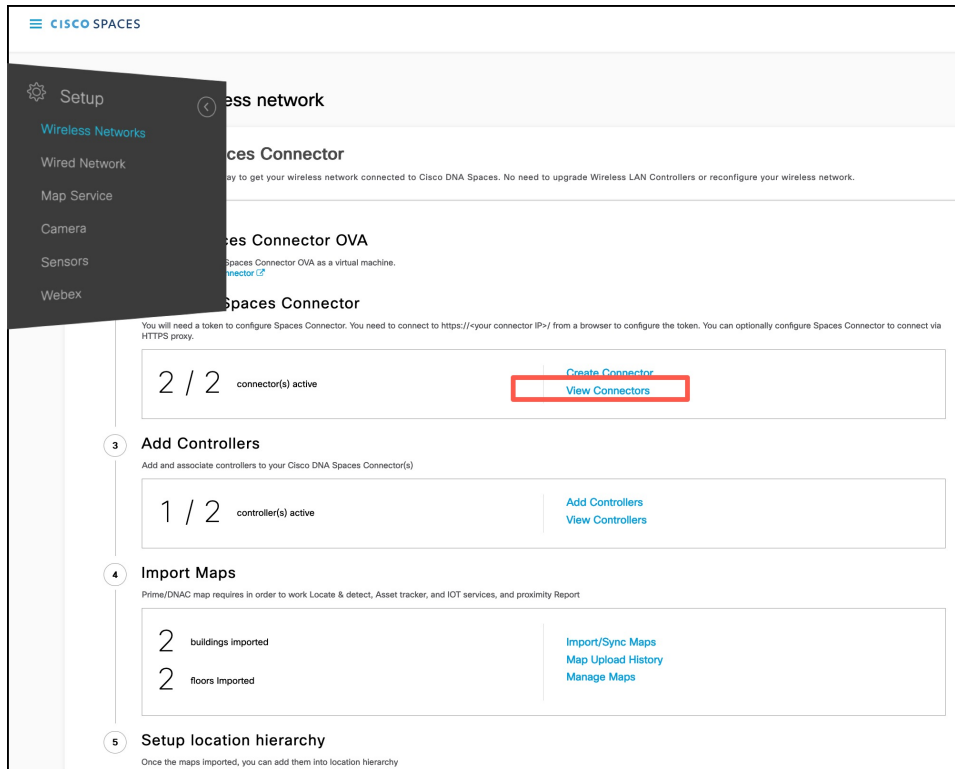


図 9: ホットスポットサービスのステータス

## ローカル Firehose の設定

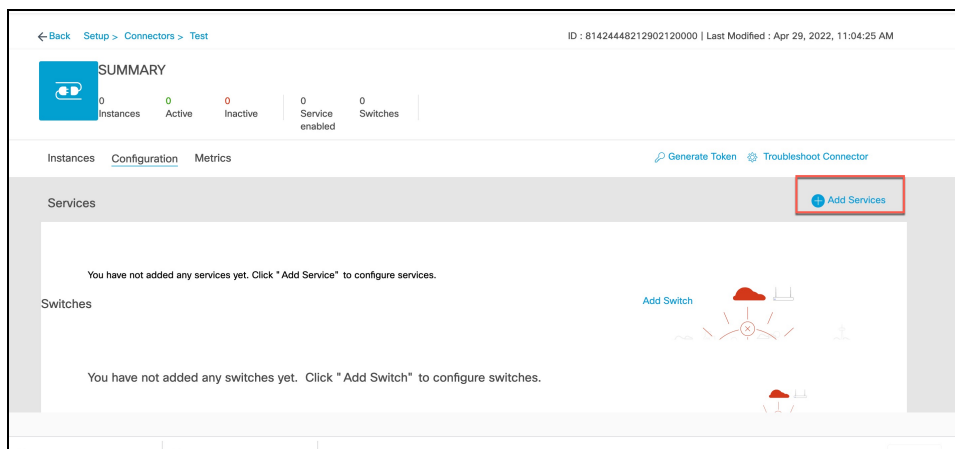
- ステップ1 Cisco Spaces ダッシュボード 左ナビゲーションペインで [Setup] をクリックし、[Wireless Networks] を選択します。
- ステップ2 表示される [Connect your wireless network] window で [Step 2] エリアに移動し、[View Connectors] をクリックします。

### 図 10: View Connectors



ステップ 3 表示される コネクタ の詳細 window で [コネクタ] を選択し、[Add Services] をクリックします。

### 図 11: サービスの追加



ステップ 4 表示される [Add Service] window で、**local-firehose** を選択し、[Add] をクリックします。



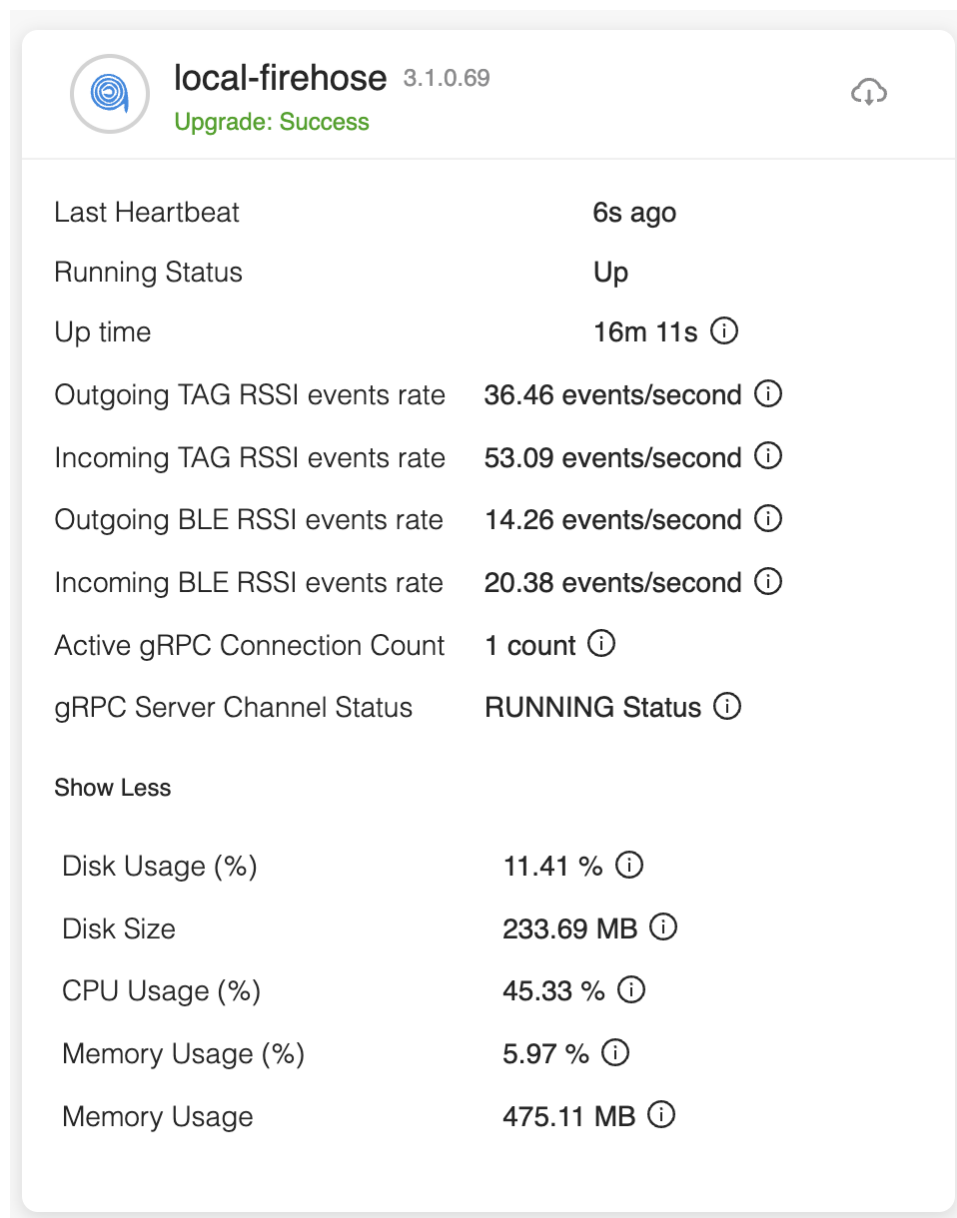
(注)

受信信号強度インジケータ (RSSI) ベースのタグの Device\_RSSI や Bluetooth Low Energy (BLE) タグの Device\_BLE イベントなどのイベントを受信するには、**location** サービスと **iot-services** サービスも追加されていることを確認します。

有効なサービスの数が増加していることがわかります。

**ステップ 5** コネクタ GUI にログインします。 **local-firehose** タイルを下にスクロールします。実行ステータスが [Up] であることを確認します。

図 12: local-firehose



The screenshot displays the local-firehose GUI for version 3.1.0.69. At the top, there is a logo and the text "local-firehose 3.1.0.69" with a green "Upgrade: Success" message. A cloud icon is visible in the top right corner. The main content area lists various system metrics:

Last Heartbeat	6s ago
Running Status	Up
Up time	16m 11s ⓘ
Outgoing TAG RSSI events rate	36.46 events/second ⓘ
Incoming TAG RSSI events rate	53.09 events/second ⓘ
Outgoing BLE RSSI events rate	14.26 events/second ⓘ
Incoming BLE RSSI events rate	20.38 events/second ⓘ
Active gRPC Connection Count	1 count ⓘ
gRPC Server Channel Status	RUNNING Status ⓘ
Show Less	
Disk Usage (%)	11.41 % ⓘ
Disk Size	233.69 MB ⓘ
CPU Usage (%)	45.33 % ⓘ
Memory Usage (%)	5.97 % ⓘ
Memory Usage	475.11 MB ⓘ

#### article\_task\_postreq

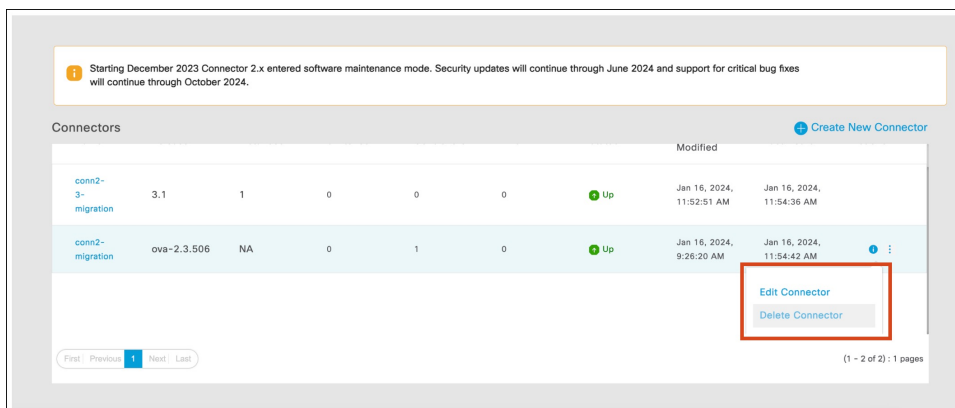
- Aeroscout Location Engine (ALE) を使用している Stanley のお客様は、コネクタ 2.x インスタンスの IP アドレスをコネクタ 3 インスタンスの IP アドレスに更新する必要があります。

- 他のすべてのお客様は、新しいコネクタ 3 インスタンスの IP アドレスを使用してアプリケーションを更新する必要があります。
- Connector3 が高可用性 VIP モードで設定されている場合は、プライマリとセカンダリの両方のコネクタ 3 インスタンスの IP を ALE で使用する必要があります。
- ローカル Firehose の API キーは変更されず、コネクタ 2 に対して生成されたものと同じです。

## 最後の手順

移行が完了し、確認を終えたら、コネクタ 2.x インスタンスを Cisco Spaces ダッシュボードから削除します。

図 13: コネクタ 2.x インスタンスの削除

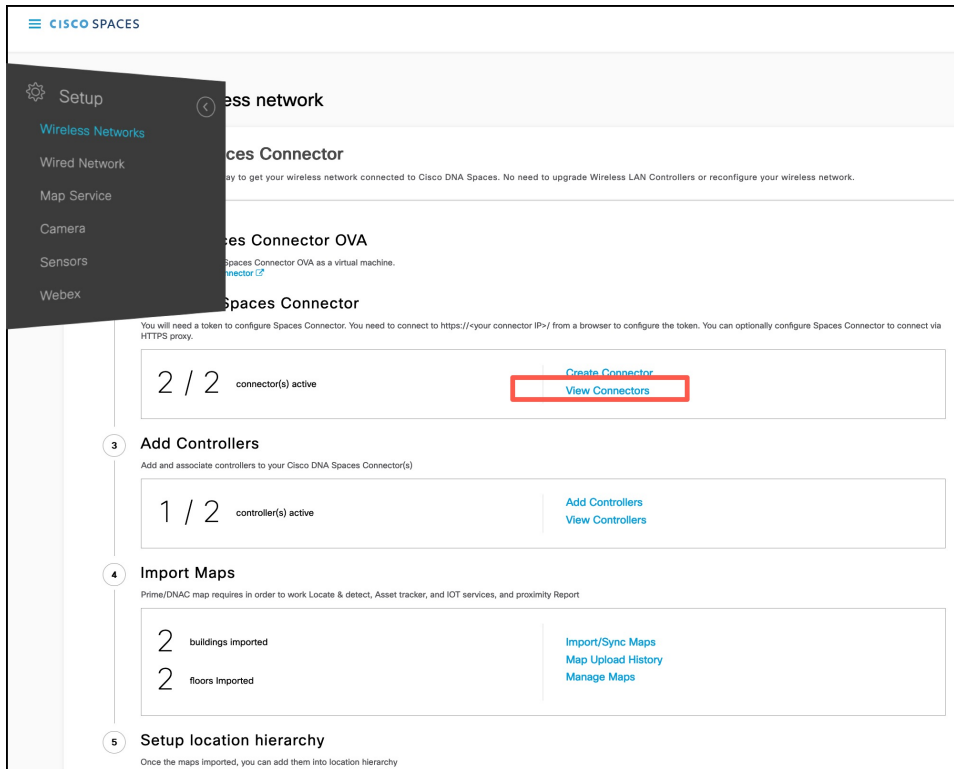


## 参考

### IoT サービス（ワイヤレス）の設定

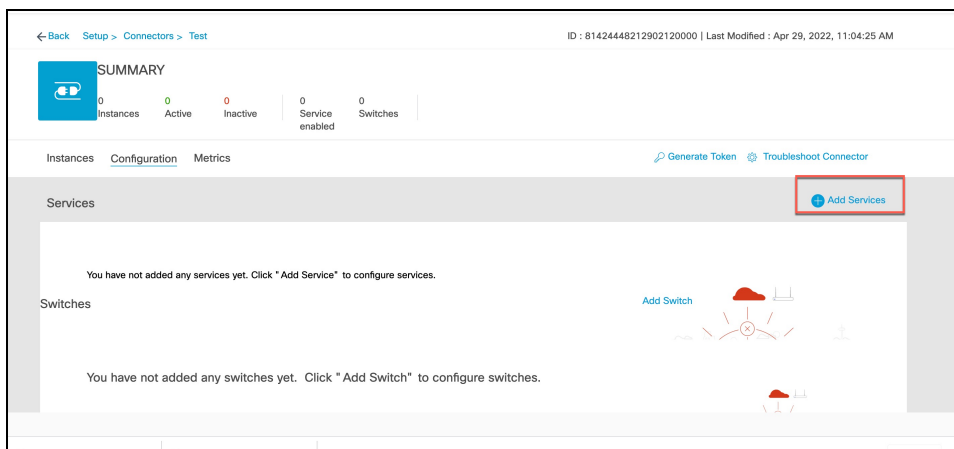
- ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボード左ナビゲーションペインで [Setup] をクリックし、[Wireless Networks] を選択します。
- ステップ 2** 表示される [Connect your wireless network] window で [Step 2] エリアに移動し、[View Connectors] をクリックします。

図 14: View Connectors



ステップ 3 表示される コネクタ の詳細windowで、[Add Services] をクリックします。

図 15: サービスの追加

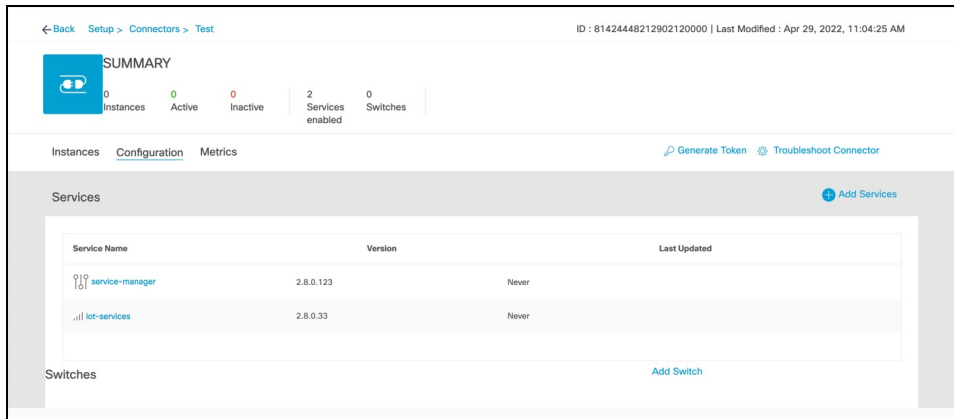


ステップ 4 表示される [Add Service] windowで [IoT Wireless] を選択し、[Add] をクリックします。

 **service-manager** はデフォルトで選択されています。

(注)

図 16: コネクタの詳細

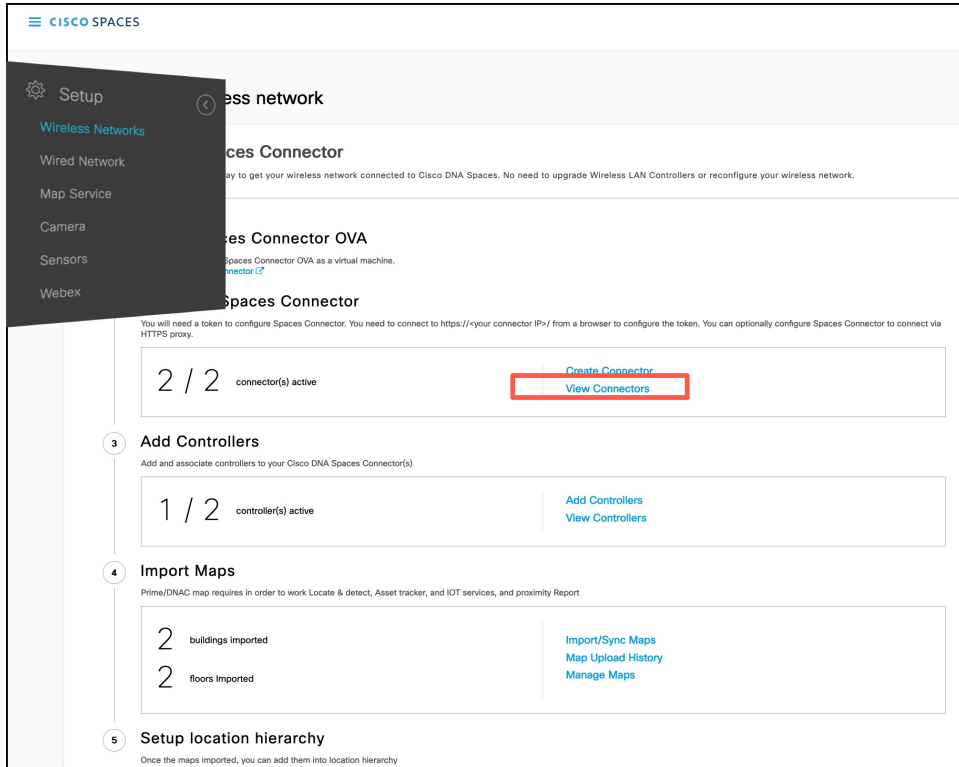


[Connector Details] windowで、有効なサービスの数が増加していることがわかります。

## IoT サービス（有線） の設定

- ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボード 左ナビゲーションペインで [Setup] をクリックし、[Wired Networks] を選択します。
- ステップ 2** 表示される [Connect your wireless network] windowで、[Step 2] エリアに移動し、[View Connectors] をクリックします。

図 17: View Connectors



ステップ 3 選択した コネクタ 3 をクリックします。

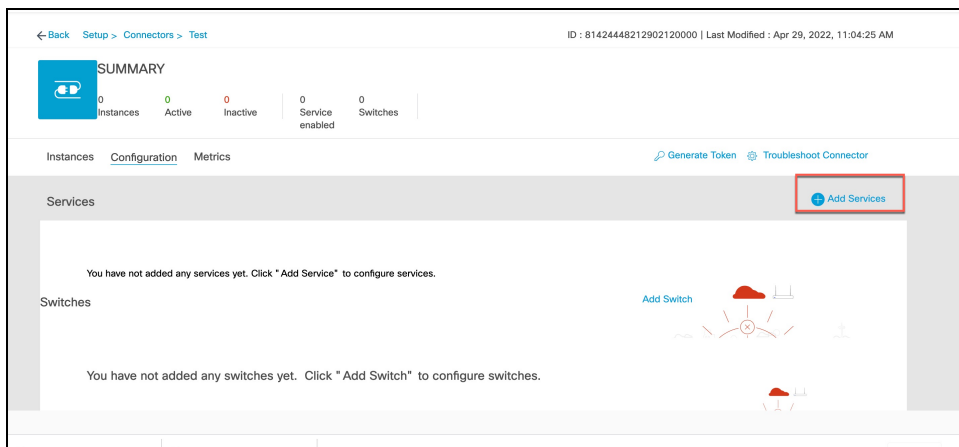


Cisco Spaces : IoT サービス (ワイヤレス) に使用したのと同じ コネクタ を使用できます。

(注)

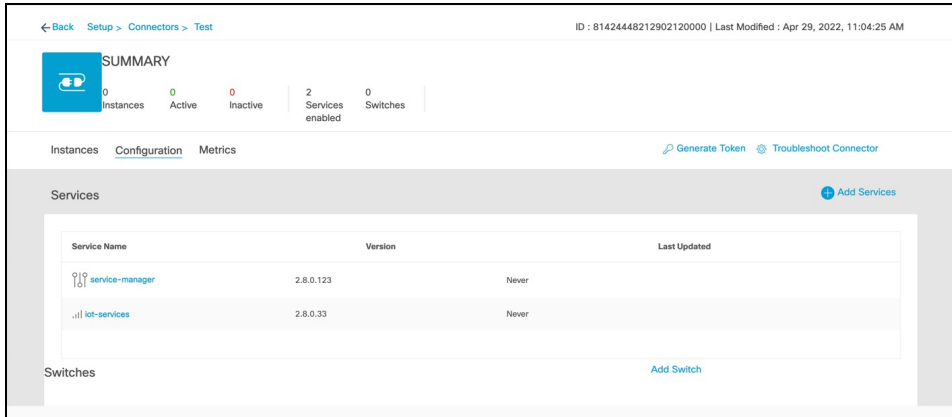
ステップ 4 表示される コネクタ の詳細windowで、[Add Services] をクリックします。

図 18: サービスの追加



ステップ 5 表示される [Add Service] windowで [IoT Wired] を選択し、[Add] をクリックします。

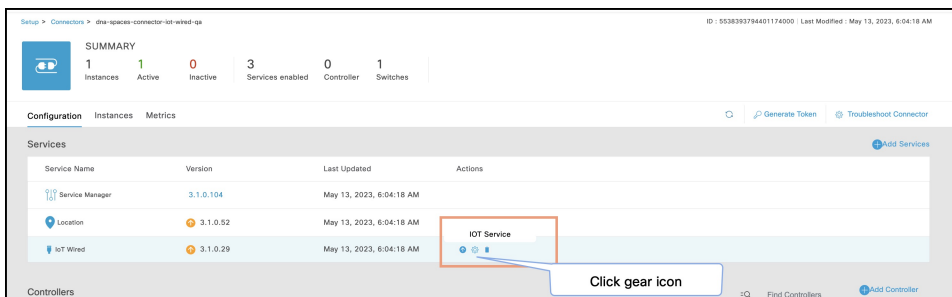
図 19: サービスの追加



[Connector Details] ウィンドウで、[IoT Wired] サービスが追加されたことを確認できます。

ステップ 6 [IoT Wired] 行の近くにある歯車アイコンをクリックします。

図 20: [IoT Wired] の歯車アイコン

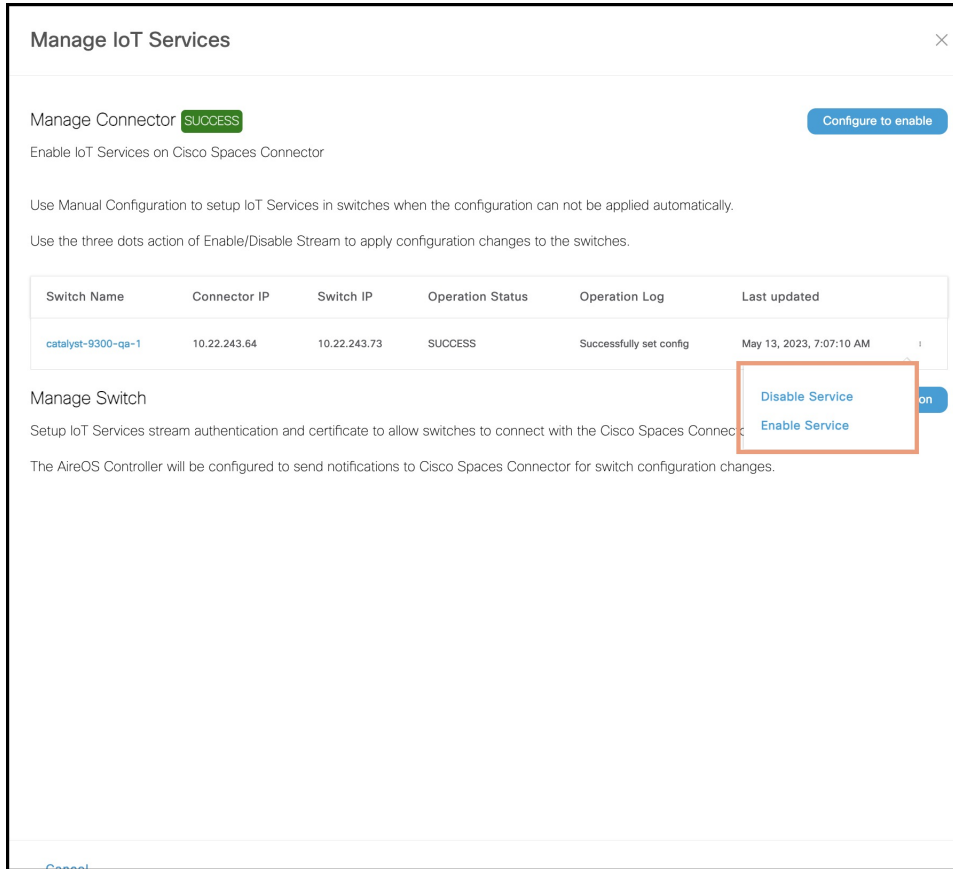


ステップ 7 (任意) 表示される [Manage IoT Streams] ウィンドウで、コネクタがまだ有効になっていないかどうかを確認し、有効になっていない場合は、[Configure to Enable] をクリックします。

ステップ 8 スイッチのリストから、スイッチの横にある縦の 3 点アイコンをクリックし、[Enable Service] を選択します。



図 21: サービスを有効化 (Enable Service)



有線とワイヤレスの両方の IoT サービスに同じ コネクタ を使用している場合、コネクタ はすでに有効になっています。

(注)

#### ステップ 9 SPAN VLAN と Cisco IOx アプリケーションの詳細を入力します。

- **宛先 SPAN VLAN** : Power over Ethernet (PoE) ノードから Cisco IOx アプリケーションにカプセル化リモートスイッチドポートアナライザ (ERSPAN) トラフィックを送信するために使用される VLAN。既存の VLAN を使用することも、新しい VLAN を作成することもできます。この VLAN は、スイッチに対してローカルにすることもできます。
- **宛先 SPAN VLAN の IP アドレス** : これは、トラフィックのルーティングに使用できるスイッチ仮想インターフェイス (SVI) または接続先 VLAN の IP アドレスです。既存の VLAN を使用している場合は、同じ IP アドレスを指定できます。既存の設定に影響を与えずに ERSPAN トラフィックをローカルに維持できるように、新しい VLAN を作成することをお勧めします。この VLAN は、SPAN トラフィックのスイッチ内でのみ使用されることに注意してください。
- **送信元 SPAN VLAN のリスト** : 有線デバイスが接続されている VLAN のリスト。これらの VLAN 上のトラフィックはモニターされます。有線デバイスが複数の VLAN に接続されている場合は、VLAN をカンマで区切って入力します。

- **SPAN の発信元 IP アドレスのモニター**：モニターセッションの送信元 IP アドレスです。これは SPAN VLAN からのアドレスである可能性があります。これは、接続先 VLAN IP アドレスと同じにすることもできます。
- **IOx アプリケーションの SPAN IP アドレス**
  - **アプリケーション Cisco Spaces コネクタ VLAN**：これは、コネクタが到達可能な VLAN です（管理またはデータ用）。Cisco IOx アプリケーションの 2 番目のインターフェイスを設定し、この VLAN を使用してコネクタにトラフィックを送信できます。この VLAN は、有線 PoE ノード VLAN と同じにすることができます。コネクタは、Cisco IOx アプリケーションからの通信を受け入れるために許可されている必要があります。
  - **DHCP**：有効にすると、DHCP はアプリケーション **Cisco DNA Spaces コネクタ VLAN** から Cisco IOx アプリケーションの 2 番目のインターフェイスに IP アドレスを割り当てます。
  - **IOx アプリケーション IP アドレス**：これは、Cisco IOx アプリケーションの 2 番目のインターフェイスに手動で設定する必要がある IP アドレスであり、コネクタとの通信に使用されます。DHCP を選択した場合、これは必要ありません。
  - **IOx アプリケーション ネットマスク**：Cisco IOx アプリケーションの 2 番目のインターフェイスに手動で設定する必要がある IP サブネットマスクで、コネクタとの通信に使用されます。DHCP を選択した場合、これは必要ありません。
  - **IOx アプリケーション ゲートウェイ アドレス**：Cisco IOx アプリケーションの 2 番目のインターフェイスに手動で設定する必要がある IP アドレスで、コネクタとの通信に使用されます。DHCP を選択した場合、これは必要ありません。

図 22: スイッチの設定

## Configure Switch

---

Destination SPAN VLAN IP address

Enter the destination SPAN VLAN IP address

---

Source SPAN VLAN list

Enter the source SPAN VLAN list

Use comma as a separator for multiple vlan

Monitor SPAN origin IP address

Enter the Monitor SPAN origin IP address

---

IOx application SPAN IP address

Enter the IOx application SPAN IP address

---

Application Cisco Spaces Connector VLAN

Enter the application Cisco Spaces Connec

---

Use DHCP

IOx application IP address

Enter the IOx application IP address

---

IOx application netmask

Enter the IOx application netmask

---

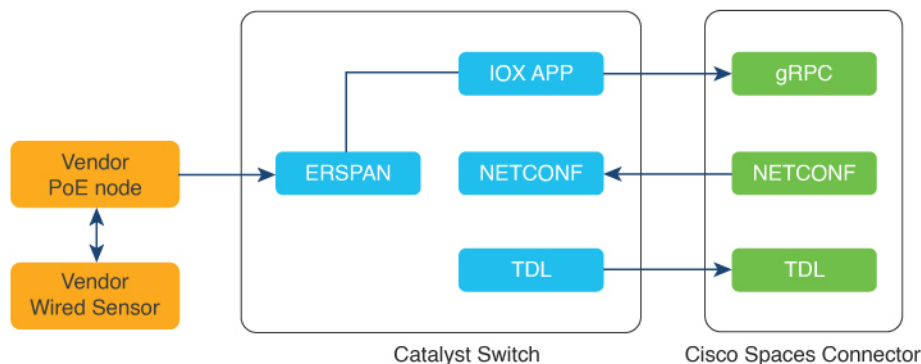
IOx application gateway address

Enter the IOx application gateway address

---

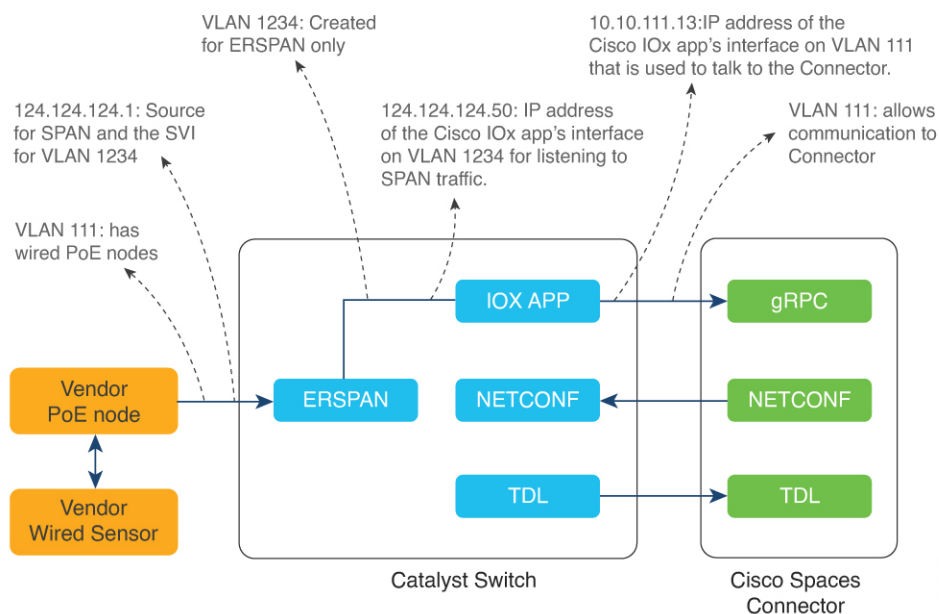
[Cancel](#) [Configure](#)

図 23: スイッチの設定



357607

図 24: 設定例



357608

**ステップ 10** [構成] をクリックします。  
 設定がスイッチに展開されます。次の図は、GUI 設定の代わりに使用できる、対応する CLI コマンドを示しています。

図 25: GUI コマンドラインのマッピング

The image shows a GUI configuration window on the left and a corresponding CLI command block on the right. A blue arrow points from the GUI fields to the CLI code.

**GUI Configuration Fields:**

- Destination SPAN VLAN: 1234
- Destination SPAN VLAN IP address: 124.124.124.1
- Source SPAN VLAN list: 111
- Use comma as a separator for multiple vlan: (checkbox)
- Monitor SPAN origin IP address: 124.124.124.1
- IOx application SPAN IP address: 124.124.124.50
- Application DNA Spaces Connector VLAN: 111
- Use DHCP: (checkbox)
- IOx application IP address: 10.10.111.13
- IOx application netmask: 255.255.255.0
- IOx application gateway address: 10.10.111.6

**CLI Command Block:**

```
vlan 1234
interface AppGigabitEthernet1/0/1
description Uplink to Application
switchport mode trunk

interface Vlan1234
ip address 124.124.124.1 255.255.255.0
!
iox

monitor session 44 type erspan-source
source vlan 111
destination
erspan-id 44
mtu 9000
ip address 124.124.124.50
origin ip address 124.124.124.1

app-hosting appid cisco dna wired_iox_app
app-vnic AppGigabitEthernet1 trunk
vlan 111 guest-interface 0
guest-ipaddress 10.10.111.13 netmask 255.255.255.0
vlan 1234 guest-interface 1
guest-ipaddress 124.124.124.50 netmask 255.255.255.0
app-default-gateway 10.10.111.6 guest-interface 0
app-resource dacker
run-opts 1 "-e GRPC_SERVER_IP=10.10.111.0"
run-opts 2 "-e GRPC_SERVER_PORT=8003"
run-opts 3 "-e GRPC_SERVER_TOKEN=eyJhaGc1OjJlUzY1MlR5TnR5c"
run-opts 4 "-e APP_HOST_ID=c0:14:fe:81:c8:00"
run-opts 5 "-e APP_HOST_IP=10.10.111.25"
```

**ステップ 11** 表示される [Manage IoT Services] ウィンドウでスイッチの名前をクリックすると、そのスイッチで実行される手順のリストが表示されます。

図 26: IoTサービスの管理

### Manage IoT Services ✕

**Manage Connector** SUCCESS

Enable IoT Services on Cisco DNA Spaces Connector

Use Manual Configuration to setup IoT Services in switches when the configuration can not be applied automatically.

Use the three dots action of Enable/Disable Stream to apply configuration changes to the switches.

[Configure to enable](#)

Switch Name	Connector IP	Switch IP	Operation Status	Operation Log	Last updated	
catalyst-9300-qa-1	10.22.243.64	10.22.243.73	SUCCESS	Successfully set config	Jun 3, 2021, 1:00:34 PM	⋮

First | Previous | **1** | Next | Last

(1 - 1 of 1) : 1 pages

### Manage Switch ✕

Setup IoT Services stream authentication and certificate to allow switches to connect with the Cisco DNA Spaces Connector

The WLC will be configured to send notifications to Cisco DNA Spaces Connector for switch configuration changes.

[Sample configuration](#)

Click the switch to view the list of steps being executed on the switch.

### Manage IoT Services ✕

#### Enable Stream Logs ✕

Action	Status	Message	Start Time	Finish Time
Enable IOx	SUCCESS	Successfully set config	Jun 3, 2021, 1:00:34 PM	Jun 3, 2021, 1:00:36 PM
Switch monitor configuration	SUCCESS	Successfully set config	Jun 3, 2021, 1:00:36 PM	Jun 3, 2021, 1:00:38 PM
IOx application configuration	SUCCESS	Successfully set config	Jun 3, 2021, 1:00:38 PM	Jun 3, 2021, 1:00:41 PM

#### Disable Stream Logs

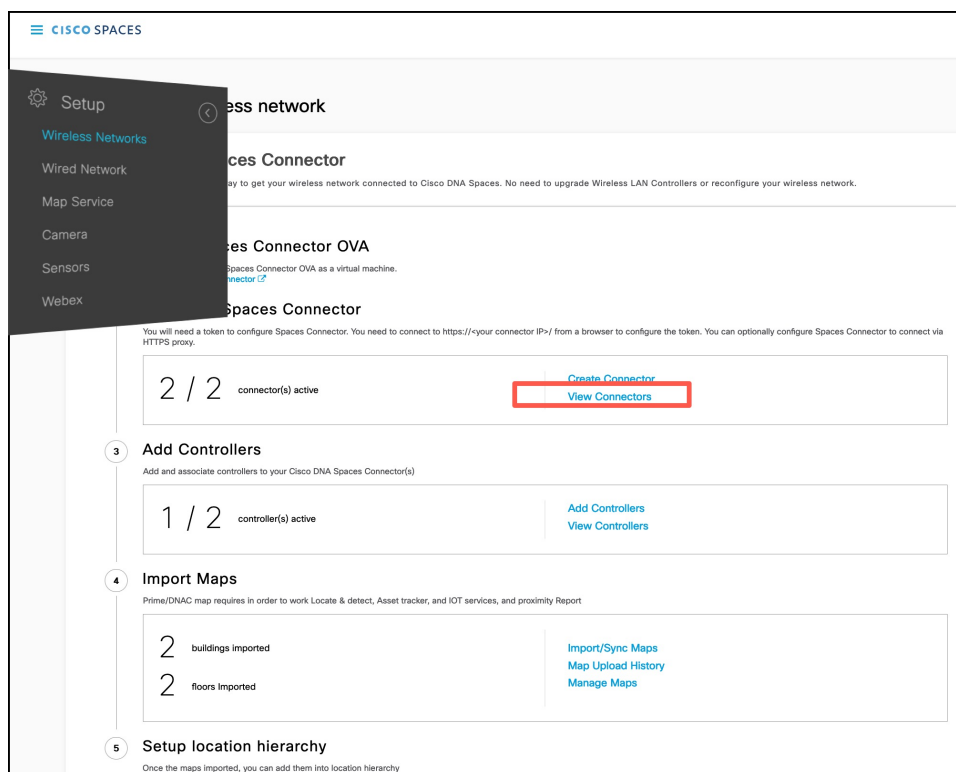
Action	Status	Message	Start Time	Finish Time
No Data Found				

## ホットスポットサービスの設定

**ステップ1** Cisco Spaces ダッシュボード 左ナビゲーションペインで [Setup] をクリックし、[Wireless Networks] を選択します。

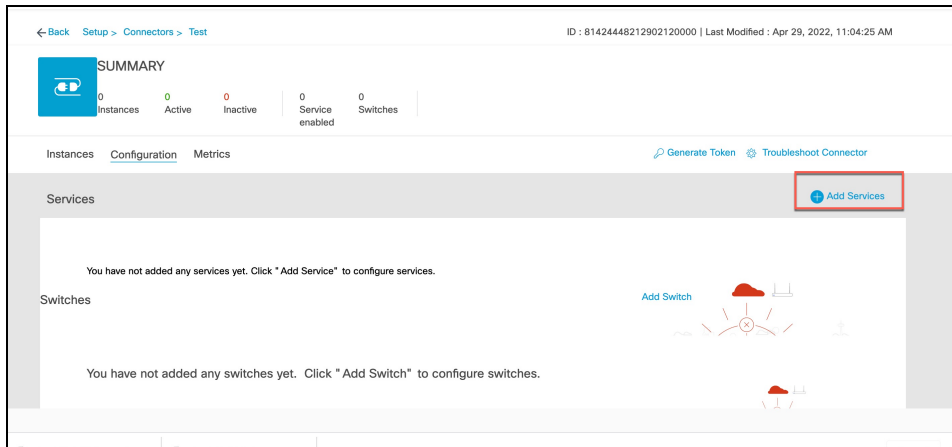
**ステップ2** 表示される [Connect your wireless network] windowで [Step 2] エリアに移動し、[View Connectors] をクリックします。

図 27: View Connectors



**ステップ3** 表示される コネクタ の詳細 windowで [コネクタ] を選択し、[Add Services] をクリックします。

図 28: サービスの追加



ステップ 4 表示される [Add Service] window で [hotspot] を選択し、[Add] をクリックします。



**service-manager** はデフォルトで追加されています。

(注)

[Connector Details] window で、有効になっているサービスの数が増加していることがわかります。

---

## ローカル Firehose サービスの設定

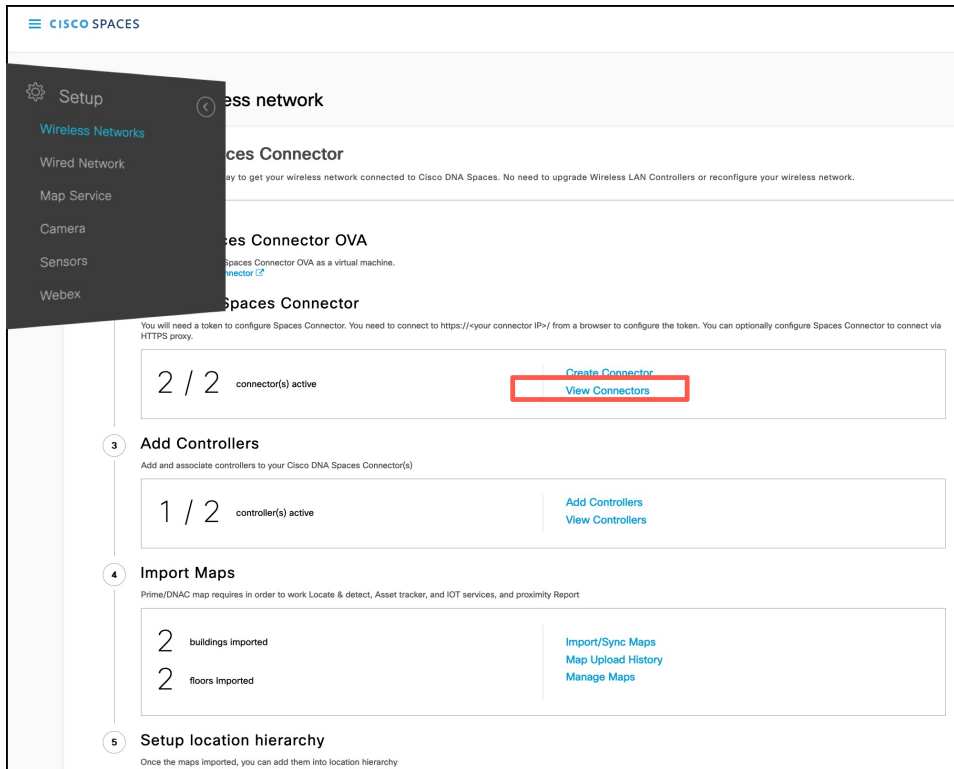
---

ステップ 1 Cisco Spaces ダッシュボード 左ナビゲーションペインで [Setup] をクリックし、[Wireless Networks] を選択します。

ステップ 2 表示される [Connect your wireless network] window で [Step 2] エリアに移動し、[View Connectors] をクリックします。

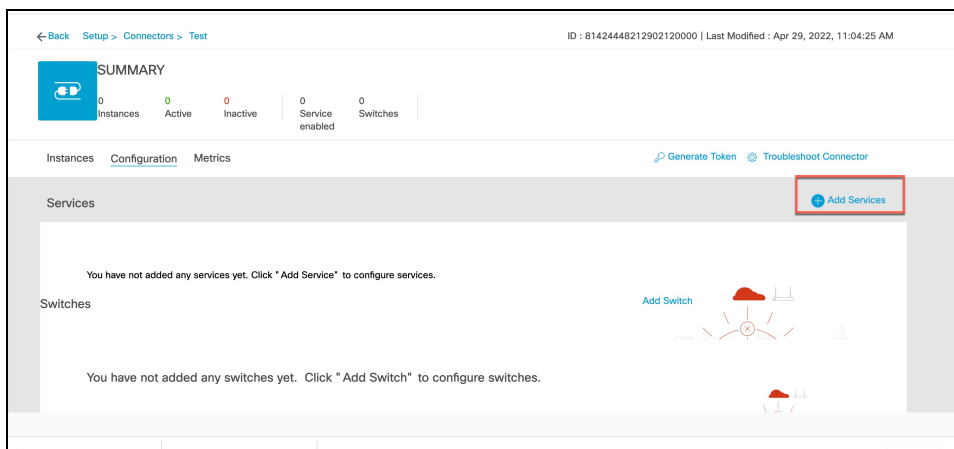


図 29 : View Connectors



ステップ 3 表示される コネクタ の詳細 window で [コネクタ] を選択し、[Add Services] をクリックします。

図 30 : サービスの追加



ステップ 4 表示される [Add Service] window で、**local-firehose** を選択し、[Add] をクリックします。

受信信号強度インジケータ (RSSI) ベースのタグの Device\_RSSI や Bluetooth Low Energy (BLE) タグの Device\_BLE イベントなどのイベントを受信するには、**location** サービスと **iot-services** サービスも追加されていることを確認します。

(注)

有効なサービスの数が増加していることがわかります。

**ステップ 5** コネクタ GUI にログインします。 **local-firehose** タイルを下にスクロールします。実行ステータスが [Up] であることを確認します。

図 31 : local-firehose

local-firehose 3.1.0.69	
Upgrade: Success	
Last Heartbeat	6s ago
Running Status	Up
Up time	16m 11s ⓘ
Outgoing TAG RSSI events rate	36.46 events/second ⓘ
Incoming TAG RSSI events rate	53.09 events/second ⓘ
Outgoing BLE RSSI events rate	14.26 events/second ⓘ
Incoming BLE RSSI events rate	20.38 events/second ⓘ
Active gRPC Connection Count	1 count ⓘ
gRPC Server Channel Status	RUNNING Status ⓘ
Show Less	
Disk Usage (%)	11.41 % ⓘ
Disk Size	233.69 MB ⓘ
CPU Usage (%)	45.33 % ⓘ
Memory Usage (%)	5.97 % ⓘ
Memory Usage	475.11 MB ⓘ

## Cisco AireOS または Cisco Catalyst ネットワークの設定

### 始める前に

Cisco AireOS または Cisco Catalyst ワイヤレスネットワークを設定する前に、SSID と AAA ポリシーを設定する必要があります。

---

**ステップ 1** [OpenRoaming] ウィンドウで、[Set Up OpenRoaming] をクリックするか、 > [Setup] を選択します。

[OpenRoaming Setup] ページが表示されます。



OpenRoaming プロファイルの設定が完了したら、構成ウィザードで [Continue OR Setup] をクリックし、次に進みます。

(注)

[Network configuration] セクションの [AireOS/Catalyst controllers] タブに、すべての Cisco AireOS および Cisco Catalyst シリーズ コントローラのリストが、コントローラのステータスや関連するコネクタなどの詳細とともに表示されます。

**ステップ 2** [Network configuration] > [AireOS/Catalyst controllers] の [Action] 列で、設定するコントローラに対応する設定アイコン  をクリックします。

[Configure Controller] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [Generate Configuration] で、ドロップダウンリストから OpenRoaming プロファイルを選択します。

デフォルト以外のポリシープロファイルまたはポリシータグが使用されている場合は、Access Network Query Protocol (ANQP) サーバー設定のみをコピーして、ワイヤレスポリシープロファイルに適用する必要があります。ポリシータグが OpenRoaming 用に構成された WLAN を使用し、構成されたワイヤレスポリシープロファイルにマップされていることを確認します。

**ステップ 4** 選択した OpenRoaming プロファイル設定を Cisco AireOS または Catalyst コントローラの CLI に貼り付けます。



CLI ベースの設定のみがサポートされています。

(注)

**ステップ 5** [Continue] をクリックします。

「Controller configured with profile successfully」メッセージが表示されます。

**ステップ 6** コントローラタイプを **AireOS** または **Catalyst 9800** のいずれかから選択します。

**ステップ 7** 既存のネットワークが Cisco AireOS コントローラをベースにしている場合は、[WLAN ID] フィールドに WLAN ID を入力します。ネットワークが Cisco Catalyst コントローラをベースにしている場合は、WLAN 名を指定します。

**ステップ 8** [閉じる (Close)] をクリックします。

[OpenRoaming Setup] ウィンドウが表示されます。

---

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。